

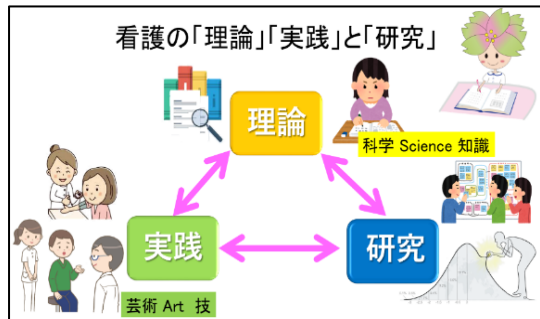
2022年度理系チャレンジ講座（第3回）を実施しました



8月24日（水）に医学部看護学科の脇 幸子先生を講師に迎え、「エビデンスに基づく看護学～大学で学んだ知識や技術を現場で活かすのはあなた次第～」というテーマで、理系チャレンジ講座第3回を実施しました。遠隔配信した安心院、国東、別府翔青、大分雄城台、大分鶴崎、大分西、臼杵、竹田、日田、中津南、大分舞鶴、大分豊府、大分南、芸術緑丘、大分東、

玖珠美山、中津北、津久見の18校254名が受講しました。

脇先生は、医療はエビデンスに基づいて選択されているということを説明してくださった後、看護の対象となる「社会で慢性疾患を持って生活している人」に焦点を当ててお話をしていただきました。慢性疾患の中の一つである生活習慣病について、具体的な症状やレベルのイメージを示すとともに、そもそもなぜ生活習慣病に注目されるようになったのかということや、それに関連して健康習慣やヘルスプロモーションについて提示されました。それを踏まえて、生活習慣病の一つである糖尿病についてのヘルスケアについて、先に述べられたエビデンスに基づく看護の考え方をを用いて分かりやすく説明していただきました。



そして、再度エビデンスについて、「人々のニーズに応じた医療を提供するためのものだ」という重要性・必要性をお話しいただき、それを学ぶのが大学での学びであるということ、看護職に就いた後も専門職として研鑽し続けることの必要性を話していただきました。ここでは、エビデンスになり得る知識を学び、看護はそれを実際の現場で多様な人々に応じて提供する、いわば芸術的なもの・技であると述べられました。また、大学はそれ

らをいかに学ぶかを学ぶ場であり、併せて看護学科に求める学生像も提示され、生徒の益々のモチベーション向上にも繋がる話でした。

受講生からは「看護において最も大切なことは物事を様々な視点で見るということを学んだ。エビデンスに基づいた看護を大切にしていこうと思い、益々看護の道へ進もうという気持ちが強まった。」「私は以前ある病院でALSの方とお話した際のことを思い出した。先生が最後にお話した多様性のある人々に応じた看護を提供するということを心に留めて、看護師になるため受験勉強を頑張りたい。」「とても分かりやすい授業だった。様々な人々を助けたいという夢があるので、もっと頑張りたいと思った。」等の感想が寄せられました。

